

消音ユニット取付マニュアル

アップライトタイプ

GENIO

MODEL : GT-2A



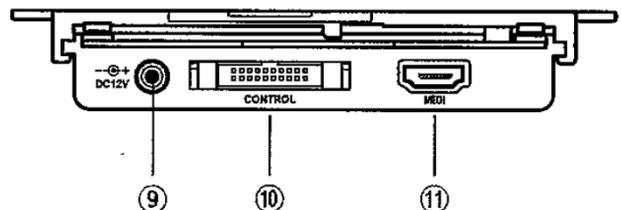
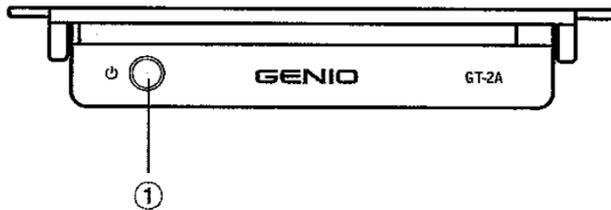
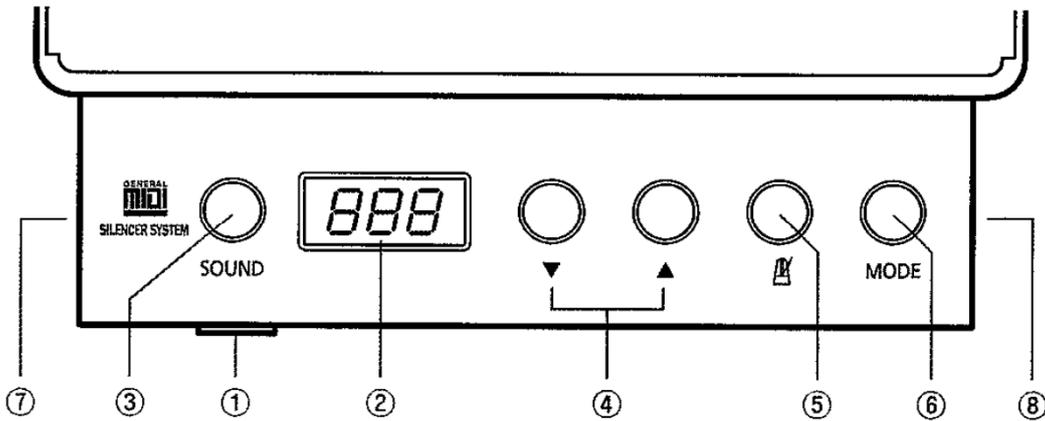
株式会社 アサヒピアノ

〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町1911-1
TEL 053-414-2050 FAX 053-414-2051

2013年 8月 更新

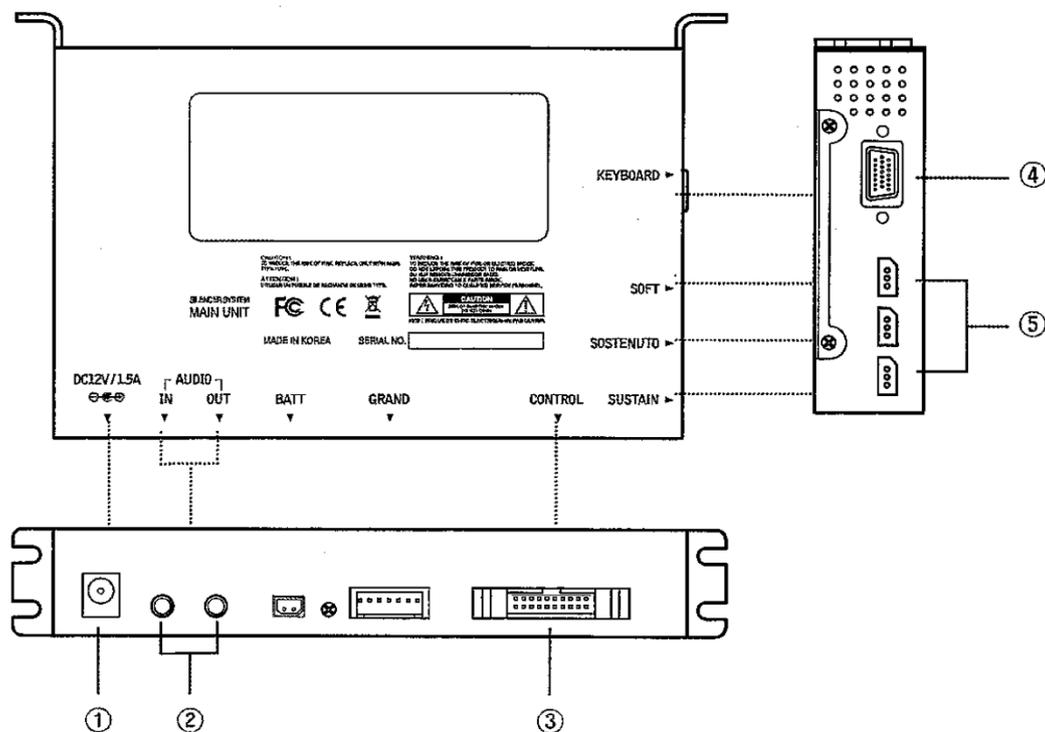
各部の名称及び機能

コントロールユニット



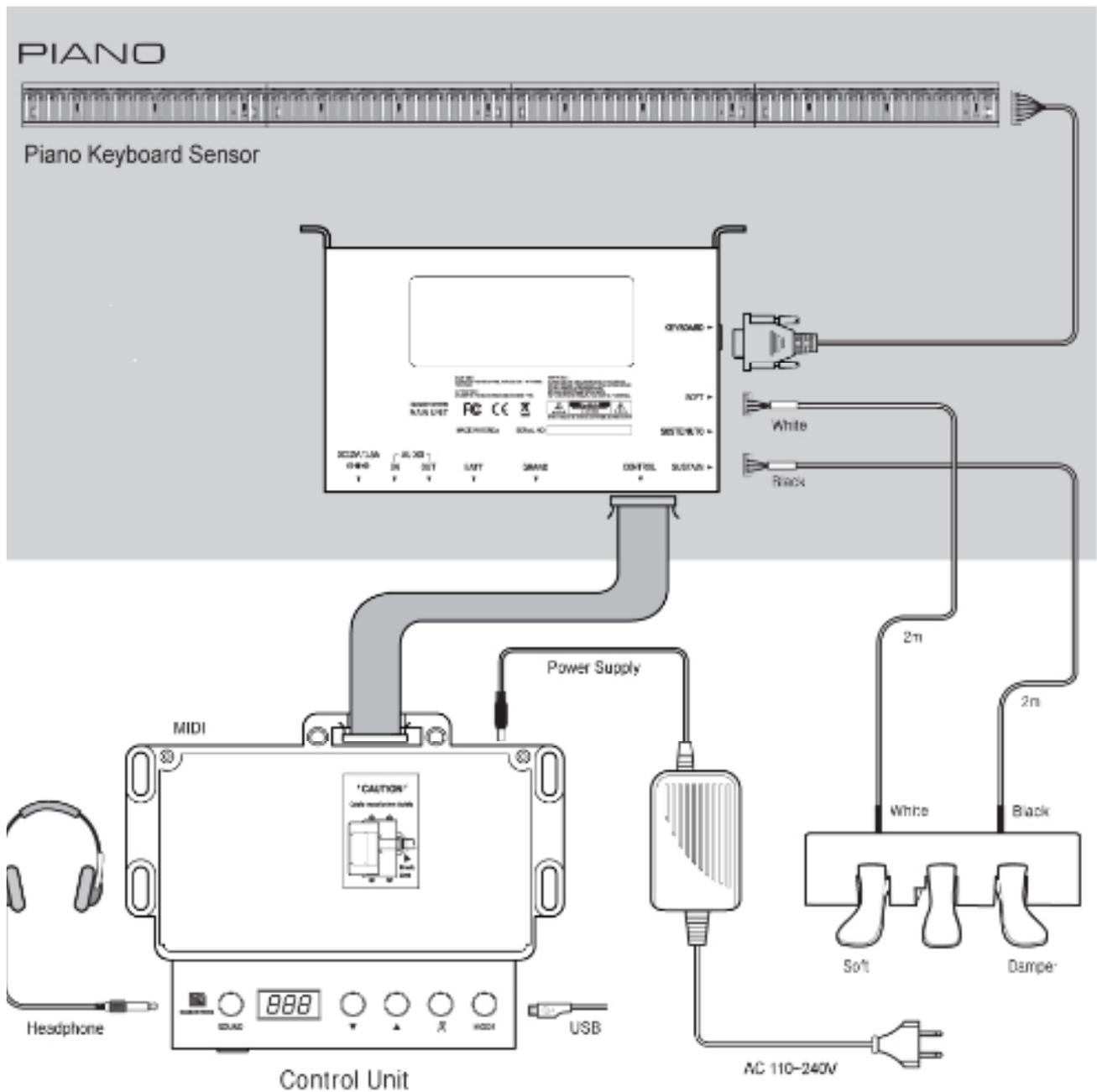
- | | |
|--------------|--|
| ① 電源スイッチ | システムのオン、オフ |
| ② LEDディスプレイ | 機能の状態、操作を表示します。 |
| ③ サウンド | 音色選択、リバーブ調節をします。 |
| ④ ▼
▲ | ボリュームを下げる、音色／リバーブ／メトロノーム調整及び選択
ボリュームを上げる、音色／リバーブ／メトロノーム調整及び選択 |
| ⑤ メトロノーム | メトロノーム機能。押すとスタート、再度押すとストップ |
| ⑥ モード | メトロノームのテンポ、拍子、ボリュームを選択 |
| ⑦ ヘッドホーンジャック | ヘッドホーンをつなぎます。2箇所 |
| ⑧ USBポート | 外部機器と接続 |
| ⑨ DCジャック | 専用アダプターにより本体へ電源を供給します。 |
| ⑩ コントロールジャック | メインユニットと専用ケーブルで接続します。 |
| ⑪ MIDI | 別売りのMIDI専用モジュールを使用して外部MIDI機器と接続
します。 |

メインユニット



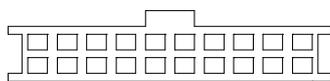
- ① DCジャック 専用アダプターにより本体へ電源を供給します。(コントロールユニットかメインユニットのどちらか一箇所に接続)
- ② オーディオIN/OUT 外部オーディオ機器と接続(ステレオ)
- ③ コントロール コントロールユニットと専用ケーブルで接続します。
- ④ キーボード 鍵盤センサーとメインユニットを専用ケーブルで接続します。
- ⑤ ペダルセンサー ペダルスイッチとメインユニットを専用コードで接続します。

システムの配線接続図

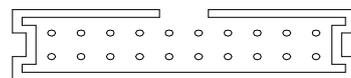


注意！ 各ケーブルの接続は、差込向きが定められています。
 差込口 オス、メスの形状をよく確認のうえ接続願います。
 接続が正常でない場合は電源故障の原因になりますのでご注意ください。

例：メインユニット、コントロールユニットを接続する平ケーブル
 凸凹を合わせて差し込む

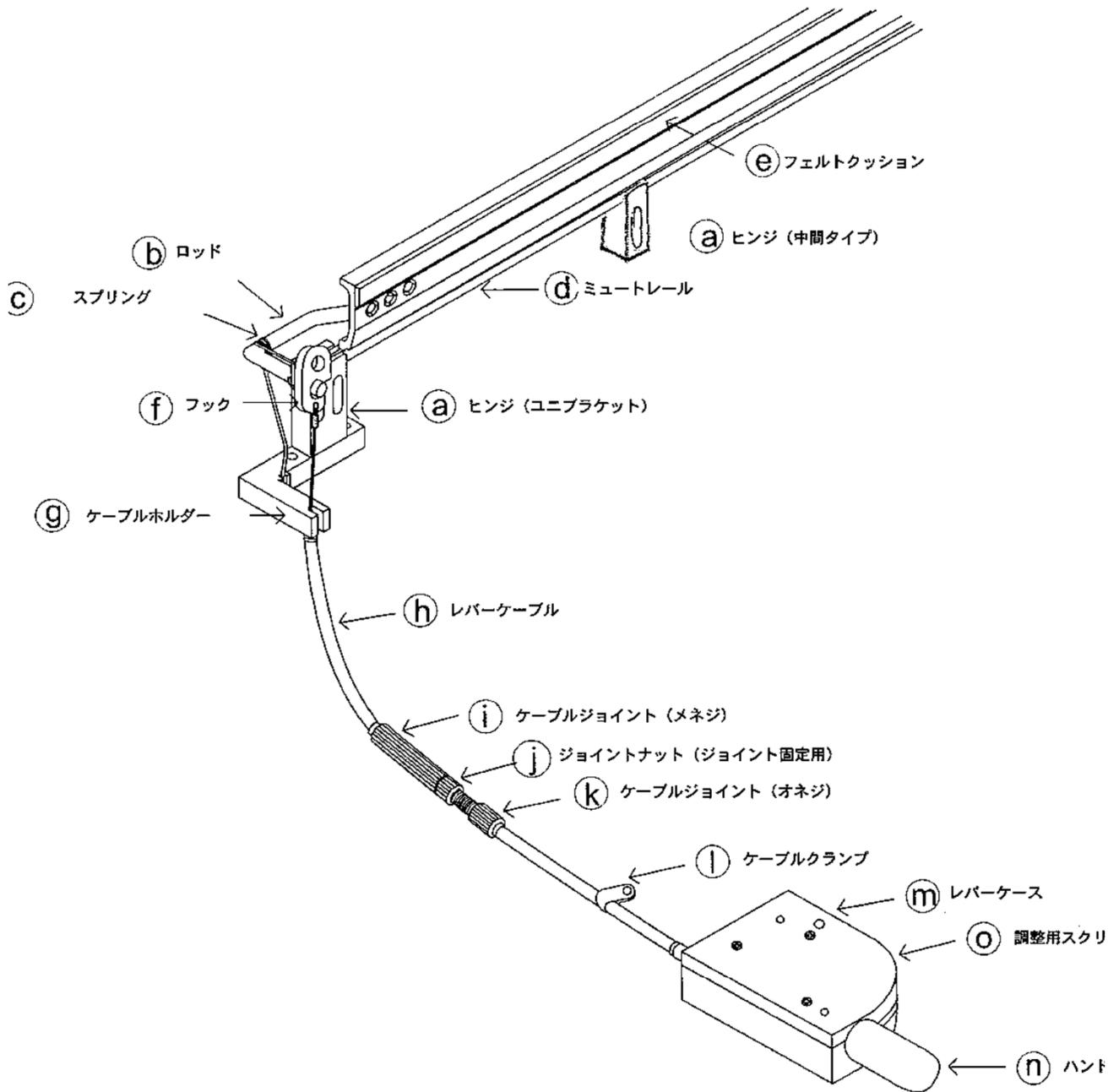


ケーブル オス側



ケーブル メス側
 メインユニット、コントロールユニット側

ハンマーシャンクストッパーアッセンブリー(全体図)



ハンマーシャンクストップバーの選択

本製品のハンマーシャンクストップバーは、5種類の規格から選べる事が出来ます。
 適合機種の場合は面倒な切断作業が省けます。
 ご注文時にストップバーを選定のうえ発注願います。

ストップバーの種類

Y121	YAMAHA 基本モデル U1,U2型に適合
Y131	YAMAHA 基本モデル U3型に適合
K125	KAWAI 基本モデル 124~127cmに適合
K132	KAWAI 基本モデル 132cmに適合
STANDARD	その他の機種、メーカー用としてノーカットバーがあります。ピアノ本体に合わせて加工が必要となります。

KAWAI 適合機種一覧

機種	高さ	ストップバー	機種	高さ	ストップバー	製造番号
KU1 KU2	124~127	STANDARD	KU3 KU5	132	STANDARD	250,000~500,000
BL12 BL31	124~125	K125	BL61	132	K132	500,000~1,050,000
BL51	127	K125	BL71	132	K132	500,000~1,050,000
KS2F	124	K125	KS5F	132	K132	1,050,000~1,400,000
KS3F	125	K125	US50 US60	132	K132	1,050,000~1,400,000
NS10 NS15	124~125	K125	NS35	132	K132	1,400,000~1,700,000
NS25	127	K125	US55 US65	132	K132	1,400,000~1,700,000
BS10 NS20	124~125	K125	BS40	132	K132	1,700,000~2,000,000
BS30	127	K125	US63H	132	K132	1,700,000~2,000,000
BS1A	122	K125	BS3A	132	K132	2,000,000~2,200,000
BS2A US5X	125	K125	US6X	132	K132	2,000,000~2,200,000

KAWAI 125,132 ストップバー
 ミドルエンド部のダンパーブロックスクリューが
 干渉しないように切り抜いてあります。



注意 !
 KAWAIの比較的新しい機種は、アクションの設計上
 ミドルエンド部のダンパーの緩衝やストップバーの
 開閉ストロークを十分に取れない場合があります。
 その場合、アクションブラケットのダンパーストップ
 レール取付面を加工したり、専金具を(別売り)使用する
 場合があります。
 詳しくは、弊社までお問い合わせください。

シャンクストップバーの加工(スタンダードタイプ)

1. アクションにストップバーをあて、切り落とす部分の線引きをします。
 - ・中間ブラケット部分
 - ・高音ブラケット部分

2. 高音部の切断



鉄鋸を使って縦に切り込みを入れたあと横から切り落とす。



切断後

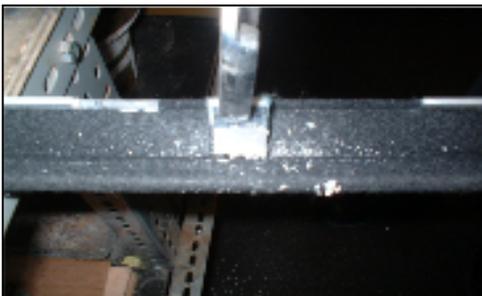
3. 中間部の切断



鉄鋸で縦に2箇所切込みを入れた後、ドリルで下部切断面に合わせて穴を開ける。



穴あけ後



プライヤーで折り曲げながら切り取ります。



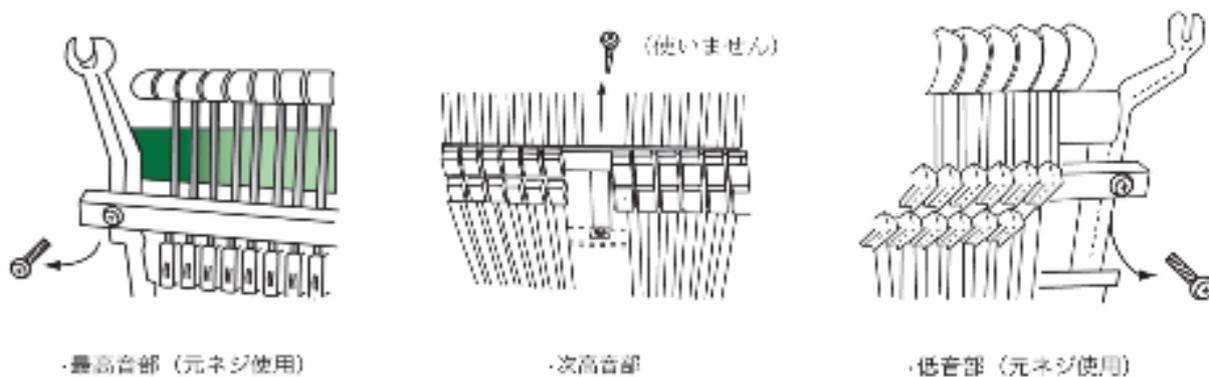
切り取り面をヤスリで整えます。



付属のフェルトを適当な大きさに切って貼ります。

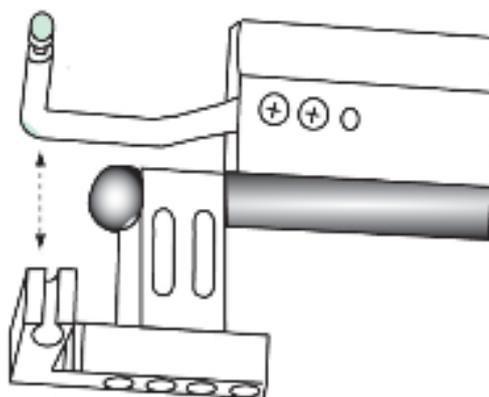
ハンマーシャンクストップバーの取付

1. アクションよりダンパーストップレールを取り外します。(ネジ4ヶ所)
また、外したネジはSTOPパー取り付けに使用します。



ヤマハの中音と高音間のL字ブラケットは、そのまま使用します。
カワイのY字ブラケットは取り外し、付属のL字ブラケットと交換します。
その際にセンターレールのダンパーフレンジ取付ガイドの突起をヤスリで平らに削ってください。
他メーカーも状態に合わせてお取付願います。

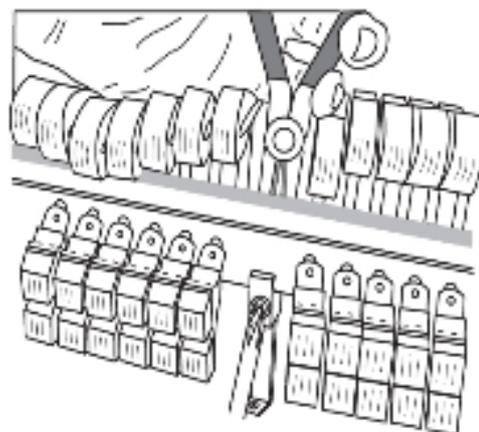
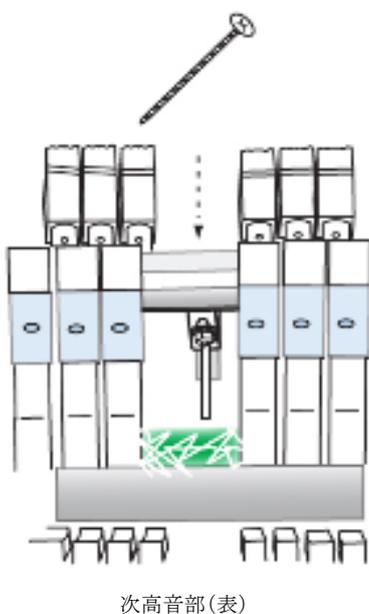
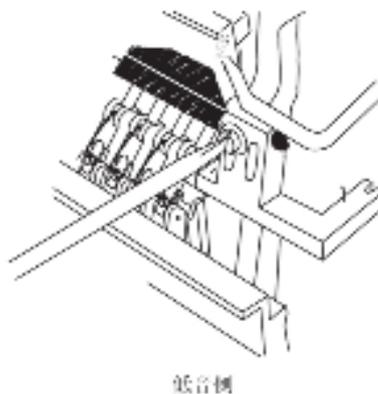
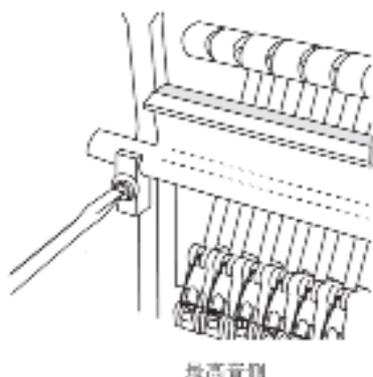
2. STOPパーにユニブラケットをはめます。



上部のフックとユニブラケットのワイヤー固定部分が直線上になるようにはめ込みます。

ハンマーシャンクストップバーの取付

3. アクションにストップバーを取付ます。(上下調整)



ダンパー側よりボルト、ハンマー側よりナットを利用して固定します。

ナットをラジオペンチでつまんでドラバーで締めます。

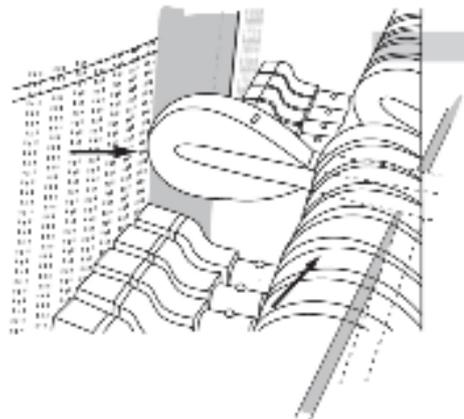
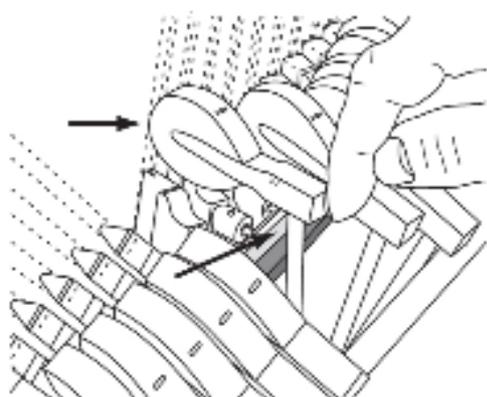
ストップバーの上下調整

ストップバーの上下位置は、できるだけハンマーフェルトに近い位置が適当です。ストップバーヒンジの固定穴は、ストップバーを上下できるようオーバルに空いています。最高音部などは、若干上げ気味に取り付ける方法も有効です。

ハンマーシャンクストップバーの取付

4. ストップバーの取付(前後調整)

ここまでの状態でアクションをピアノ本体に固定します。



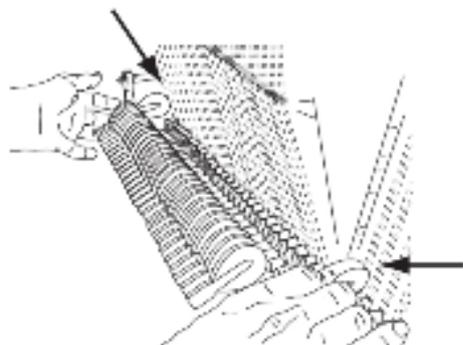
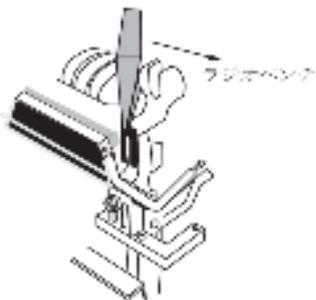
まず、ストップバー(左端レバー)を左手で軽く手前に引き図のように各セクションのハンマーを指(右手)で押して見ます。

そのままレバーを徐々に弦に近付け、一番先に弦に触れるハンマー(セクション)を探します。探し出されたハンマー(セクション)が基準値となります。

基準値となるセクションが決まったら、それ以外のセクションが基準値に比べてどのぐらい弦から離れているかを目測で計測します。(各セクションごとの誤差を記録しておくことで作業効率がアップします)

次にアクションをピアノから降ろします。

基準値以外のセクションのブラケットを緩めて付属のスペーサーをはさんで調整し、再度締めなおします。



再度アクションを本体に固定し、各セクションで弦との距離が均一化を確認します。均一になるまでは何度でもこの工程を繰り返します。

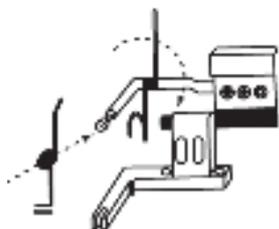


テーパースペーサーは、ストップバーの動きを増幅させたい時に使用します。バーの角度を付ける事によって運動量を確保します。

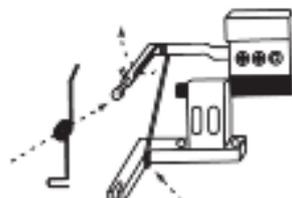
ハンマーシャンクストップバーの取付

5. ストップバーの固定

再びアクションを取り外し
スプリングをつけます。



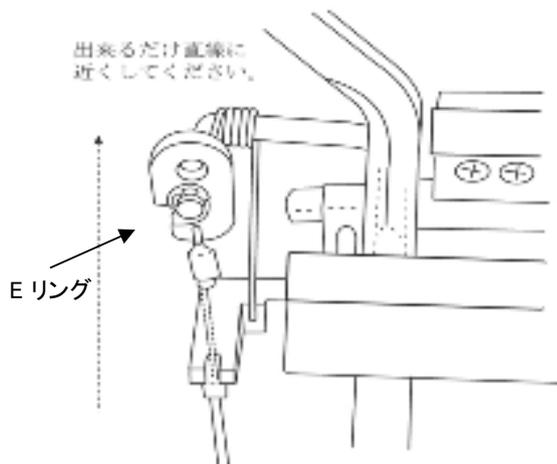
スプリングを付けたらEリングをはめ込みアクションを本体に固定します。



Ⓜ ←Eリング

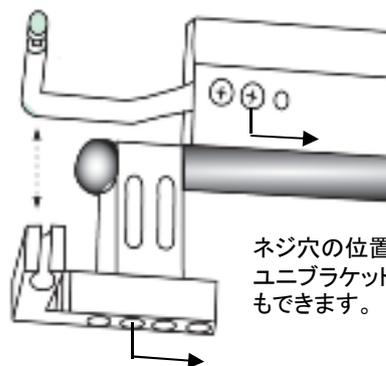
引っ掛けます

出来るだけ直線に
近くしてください。



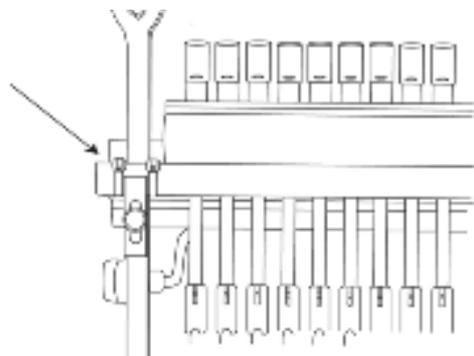
Eリング

・フックをストッパーレバーにかけます。



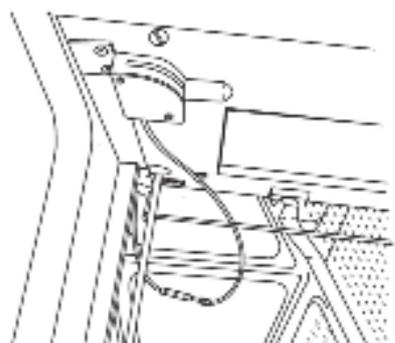
ネジ穴の位置を変えることにより
ユニブラケットの位置をずらすこと
もできます。

低音側に腕木やペダル突き上げ棒など緩衝する場合も
ユニブラケットをずらすことによって回避できます。



ストップバーが左右にずれるのを防ぐため最高音部に
付属のケーブルタイを使用します。

6. ハンドルレバーを取り付ける



取付位置

ワイヤーが邪魔のないように
自然な形の形になるよう取り付けします。



約1cmほど出す

取付位置

付属の木ネジでピアノの
左側に付けます。
レバーを引いた時棚から
1cm程出る位が定位置です

また、ジョイントスクリューや
ワイヤーが干渉しないよう
クランプで固定してください。

ハンマーシャンクストップバーの取付

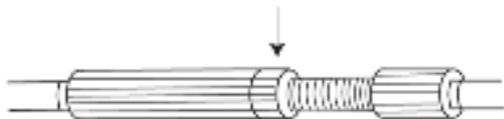
7. ストップバーの前後調整



中間の小ナットを緩める



調整後、小ナットを締め直す

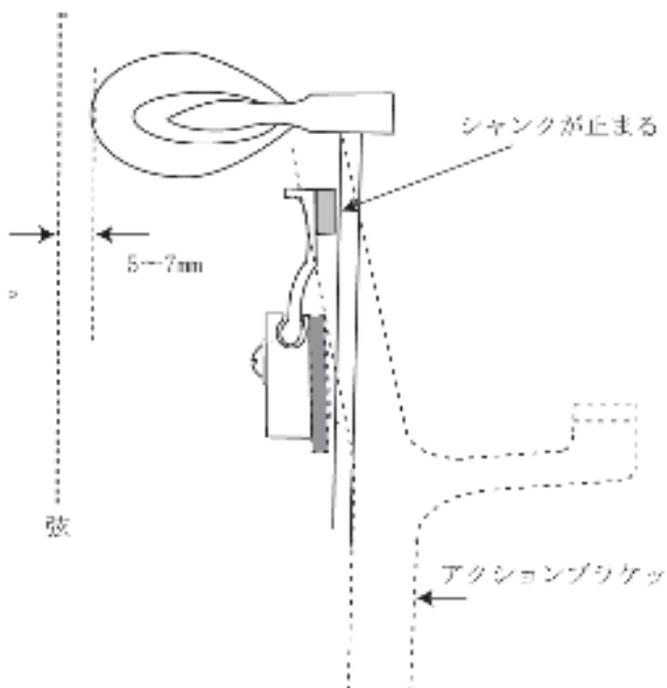


この小ネジで調整します。

ジョイントスクリューを広げるとストップバーが手前に、逆に狭めると奥に動きます。定位置に調整したあとは、小ナットを締めしっかり固定してください。

レバーボックス内の右側の細いネジでストローク調整が出来ます。右に締めると奥に入る、つまりレバーが多く戻るのでストップバーがより多くダンパー側に行きます。逆に左に緩めるとレバーの戻りが少なくなるためストップバーはハンマー寄りで止まります。

通常演奏時にハンマーシャンクに緩衝しない位置までストップバーが戻り、なおかつダンパーが十分に働く位置に調整してください。



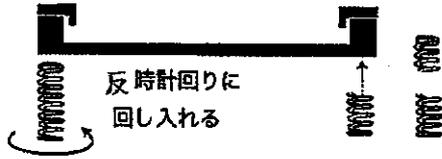
推奨位置はハンマーと弦の距離が5～7mmです。

注意 !
ストップバーの位置が決まった後は、その位置にあわせてレットオフの調整を行います。システムの機構上ハンマーのレットオフは通常より広く取る必要が有ります。レギュレティングスクリューを回してストップバーに対して0.5～1mm程度はなれたところでレットオフするように調整します。

レットオフが抜けない状態で鍵盤が確実に下がらない場合、キーセンサーの作動に支障をきたす事があります。

キーセンサーの取付

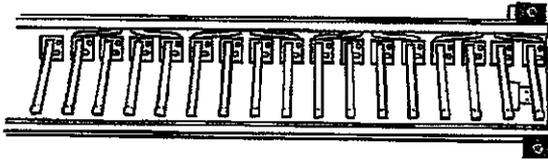
1、センサープレートへスプリングをセットします。



反時計回りに
回し入れる

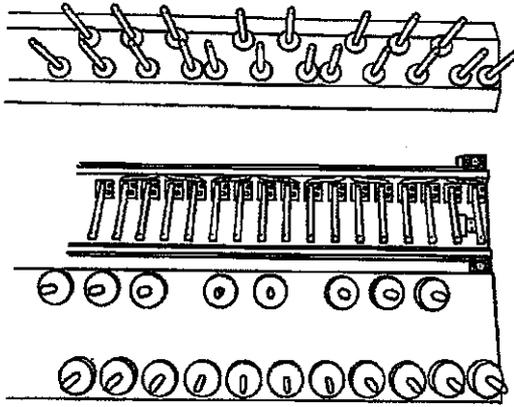
長い場合は切ります。
切り口が鋭いので、切った方を
プラスチックにはめます

2、センサーレールへセンサープレートをUPは5カ所、GPはオサの位置へ4~5カ所セットします。

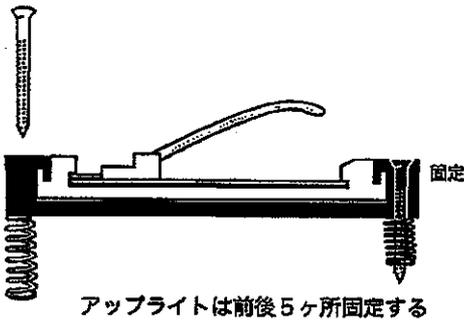


スプリングを付けたセンサープレートを
キーセンサーへスライドさせながら、
セットします。

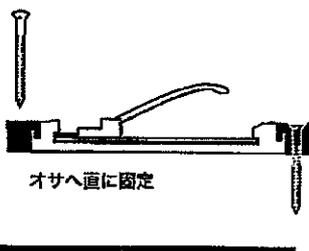
3、キーセンサーを棚板へ取付けます。



センサープレートが
フロントレールの段に
触れる
程度までフロント寄りにつける



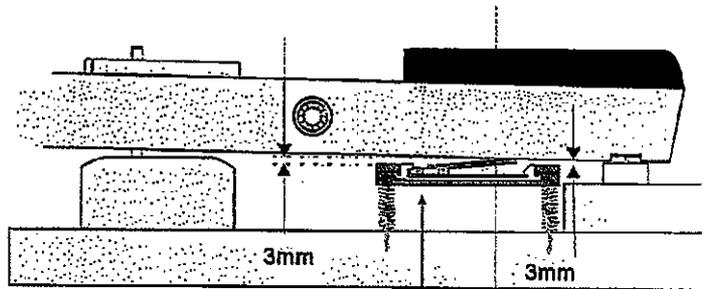
アップライトは前後5ヶ所固定する



オサへ直に固定

プレートを使わない

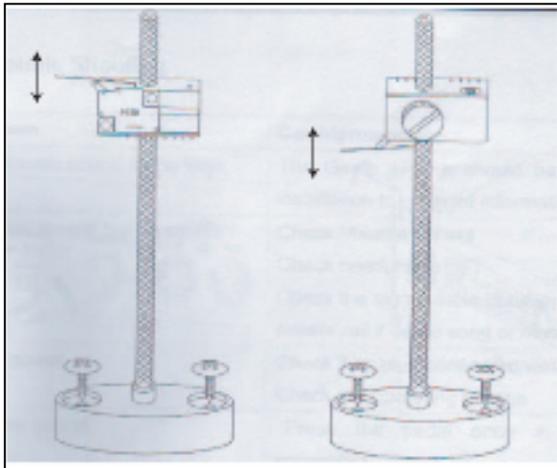
センサーレールの上面と黒鍵を押し下げた時に
黒鍵下面が前後とも3mm程度の隙間で取付けます。
3mmに若干の誤差は初期設定にて補正されます。



注意！アクチュエーターの後側が鍵盤を下げた時に当たらない
ように後ろ側を少し低く取付けてください。

カワイの古いモデルではセンサープレートのプレート部分を使わずにネジ穴のパーツだけでオサに直に取り付け可能です。

ペダルセンサーの取付

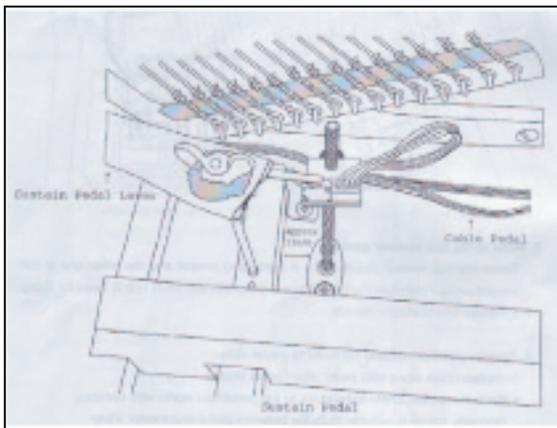


ペダルセンサーは天地方向どちらにも取り付けが出来ます。

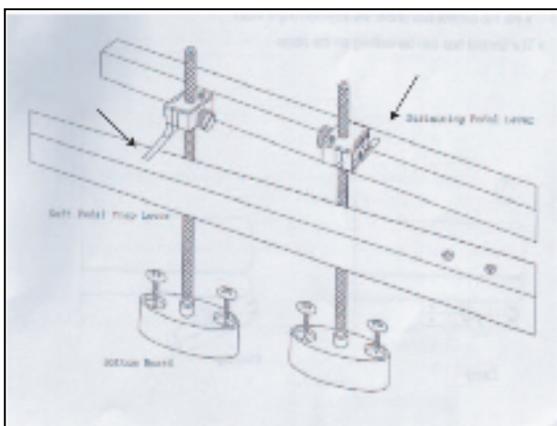
単純な ON - OFF スイッチなのでペダルの天秤棒の働きにあわせてスイッチが作動する位置を決めます。

センサーを上下させスクリューを締めることによりスイッチのタイミングを調整します。

サスティーン、ソフトのケーブル表示を確認のうえコネクターを接続します。(P2 配線図参照)



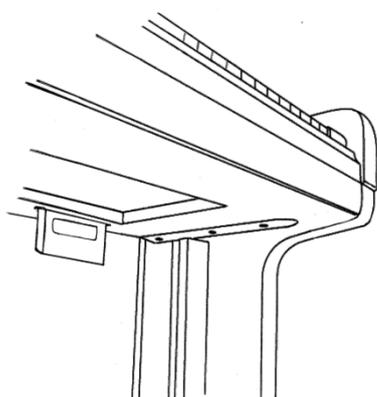
ペダル付近に取り付ける場合



天秤棒左側に取り付ける場合

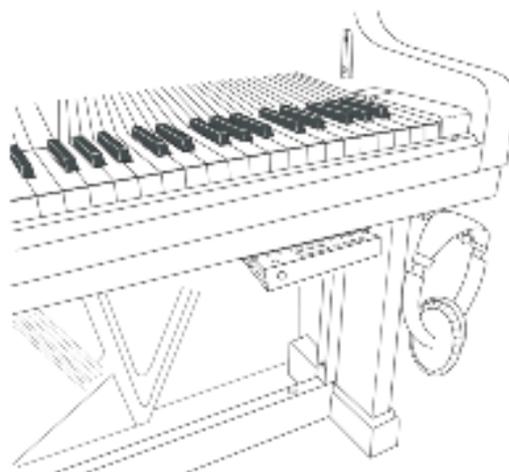
ユニットの取付位置

全体図



メインユニット

高音側、下前板の内側、棚の下面に取り付けます。
上記位置に取りつけるスペースが無い場合は
親板の内側でもOKです。

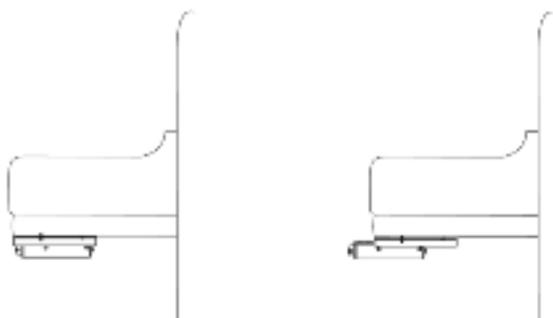


コントロールユニット

高音側、棚板仮面に取り付けます。



コントロールボックスをつける前にヘッドホーン掛けを
取り付けます。
付ける位置は、高音側、足の内側を推奨します。



コントロールボックスは、一度押すと収納
更にもう一度押すと操作版がスライドして
出てきます。

注意 !
棚板裏面が水平でない場合にスライドが
引っかかる事があります。
その場合、木ネジ設置面にかいものなど
をしてスムーズにスライドするよう調整願
います。

システムの初期設定

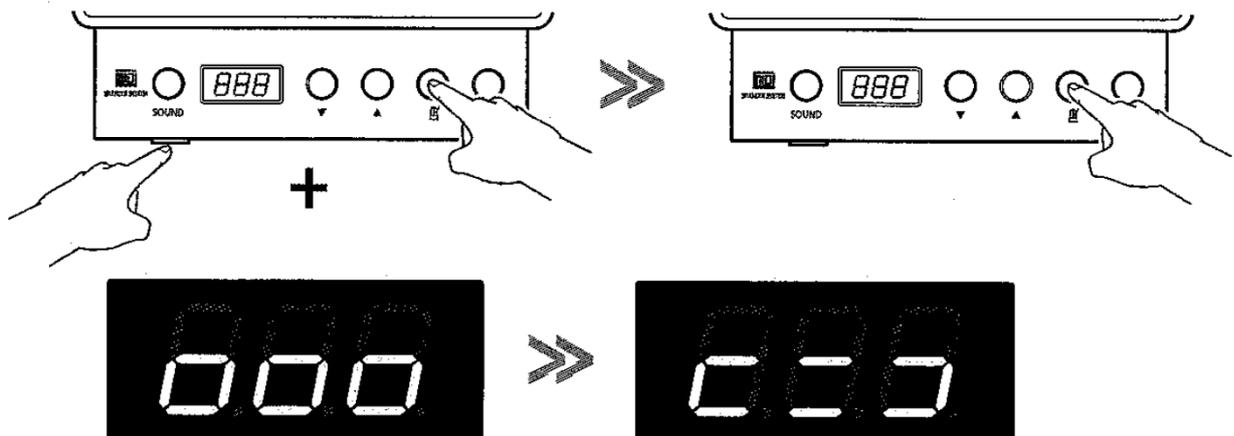
GT-2A消音システムは、新規取り付け後はもちろん、アクション、鍵盤などの整調や引越しなどで設置状況に変化があった場合、必ず初期設定を行う必要があります。初期化することで鍵盤の微妙な動きを本システムに記憶させ最高の状態での演奏が可能となります。正しく初期設定がなされない場合、発音不良の原因になりますのでご注意ください。

初期化の前に

- ① 本システムの配線連結が完全であること
- ② 消音レバーが消音位置にあること
- ③ 設定前に鍵盤が押されていないこと
- ④ レットオフ等の消音システムに合ったピアノ調整が済んでいること

初期設定手順

[E]ボタンを押しながら電源を入れる。3秒ほど長押しし画面が初期設定モードに変わるまで待機します。



- ・画面が変わったことを確認できたら88鍵盤を全てメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと弾きます。
- ・重複して弾いた場合は、あとで弾いた値が入力されます。
- ・左右のペダルも1回ずつ踏んでください。



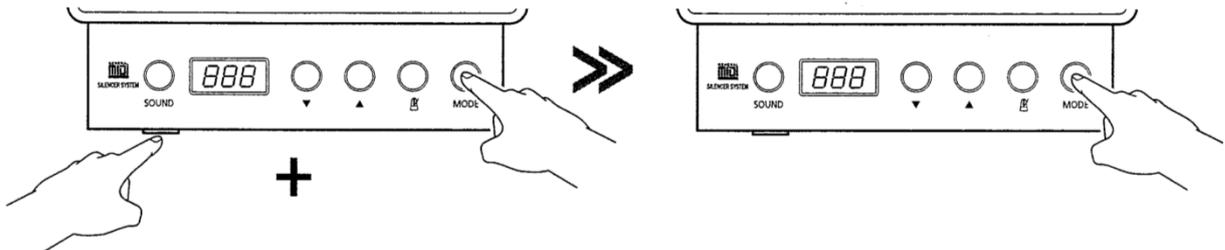
- ・全ての鍵盤、ペダルを弾き終わったら[E]ボタンを押します。
- ・このように1秒ほど画面が表示されその後「P01」に変わります。
- ・これで演奏が可能となります。

鍵盤ごとの感度調整(ボリューム調整)

初期設定をすることで各鍵盤の感度は自動調整されますが、若干鍵盤ごとの音量の違いが出る場合があります。その場合は、下記の手順でボリュームの微調整が可能です。

調整方法

[MODE]ボタンを押しながら電源を入れます。



1) 3秒ほど長押しして画面が変わるのを待ちます。



2) ヘットホーンを着用のうえ、鍵盤を弾きながら調整すべき鍵盤を探します。



3) 調整が必要であれば[▼]または[▲]ボタンにて音量を微調整します。
最後に打鍵された鍵盤が調整されたものになります。
調整範囲は1～255です。

上記の方法を繰り返して他の鍵盤も微調整します。



4) 全体の調整が終了したら再度[MODE]ボタンを押して変更したデータを本体メモリーに記憶させます。



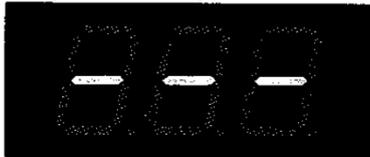
5) しばらくすると画面が「P01」に変わり演奏が可能となります。

消音ユニット基本操作

GT-2A消音ユニットはアコースティックピアノの演奏はもちろん、必要に応じて消音状態での演奏が可能です。電源を入れると消音レバーのオン、オフに関係なく起動します。取扱説明書をよくお読みいただきご使用ください。

はじめに

本体の電源を入れると約5秒後に画面が演奏状態に変わります。



システム起動中



演奏可能状態

GT-2A消音ユニットには、デジタルピアノと同じように多彩な音色での演奏が可能です。色々な音色で演奏を楽しんで見ましょう。

音色の選択

- ・ [SOUND] ボタンを押すとサウンドモードになります。
- ・ [▼] または [▲] ボタンを押して音色を選択します。



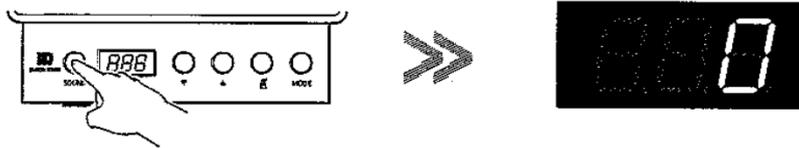
音色表

No.	音色	No.	音色
1	PIANO 1	6	VIBRA PHONE
2	PIANO 2	7	STRINGS
3	E.PIANO 1	8	CHOIR AS
4	E.PIANO 2	9	PIPE ORGAN
5	HARPSI CHORD	10	CHURCH ORGAN

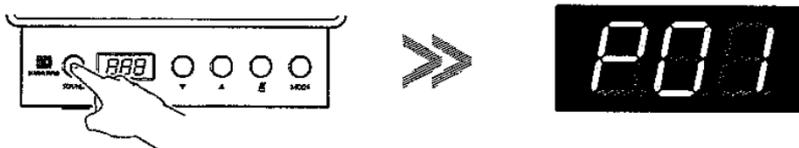
システム起動時には、あらかじめ「PIANO 1」に設定されています。

リバーブ調節

- ・ [SOUND]ボタンを長押しすると(2秒以上)リバーブ調整モードになります。
- ・ [▼] または [▲] ボタンを押して好みの設定値を選択します。(0~127)



- ・ 調整後、再度[SOUND]ボタンを短く押して設定完了。演奏が可能となります。



メトロノーム

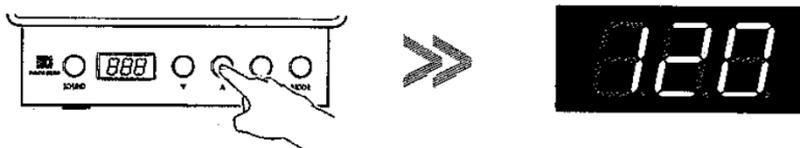
本ユニットにはメトロノーム機能が内蔵されています。

- ・ [M]ボタンを押すとスタート、再び押すとメトロノームがストップします。

- 1) [M]ボタンを長押しすると(2秒以上)メトロノーム設定モードに変わります。
- 2) メトロノーム機能には、テンポ、拍子、音量の設定が可能です。
- 3) 初期状態はテンポ設定モードになっています。
 - ・ [MODE]ボタンを押して、拍子、音量などの設定が選択できます
- 4) 設定中であっても[M]ボタンでON/OFFが可能です。

テンポ

- ・ デフォルトのテンポは120に設定されています。
- ・ [▼]または [▲] ボタンで速さを設定します。
- ・ 可変範囲 25~250

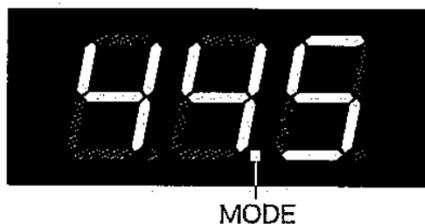


拍子

テンポモード状態から[MODE]ボタンを押すと拍子設定モードに変わります。

ディスプレイ表記: 小数点上2桁が分子、1桁が分母(1/2 ~ 9/8、21タイプ設定可)
・ [▼]または [▲] ボタンで速さを設定します。

可変範囲: 1/2~4/2、1/4~8/4、1/8~9/8



音量

拍子モード状態から[MODE]ボタンを押すと音量設定モードに変わります。

- ・ [▼]または [▲] ボタンで音量を設定します。
- ・ 可変範囲 1~9

[M]ボタンを再度押すとメトロノームが終了します。



・ メトロノームのテンポ、拍子、音量設定は演奏中でも可能です